

関東甲信越支部長活動報告

2011年7月



支部長 上浪 寛

支部執行部からのメッセージ

UIA 大会開催まであと1ヶ月となりました。JIA 関東甲信越支部の会員を中心に式典、基調講演などのプログラム実行体制の協力を進めています。9月25日(日)には JIA 本部臨時総会が開催され定款改定案の決議を致しますが、その内容を周知するため関東甲信越支部では7月22日に定款改定をテーマとする会員集会を開催しました。9月25日(日)は午前に JIA 本部理事会、午後臨時総会となります。定款改定に必要な議決数は**全会員の2/3以上の賛成票**です。JIA の会の存続を掛ける大事な決議となります。皆様、臨時総会へのご出席、または議案への委任状を必ずご提出頂きますようお願い申し上げます。

支部長活動報告

- 5日 UIA 東京大会を目前にして最後の JOB 実行委員会/諮問委員会並びに協賛頂いた方々を迎えての感謝祭が建築家会館1階ホールで開催された。300名に及ぶ参加者が集まった。3階大会議室も会場として用意されたが3階には誰も行かず、大ホールはすし詰め状態の賑わいだった。支部広報についての調整会議に参加。JIA ホームページをUIA 東京大会臨戦態勢に相応しい内容にしなければならない。JIA のホームページで特に JIA プログラムを中心とする紹介を行うこととする。支部ホームページWGを中心として本部の協力も得ながら大会全体を俯瞰できる内容とする。
- 6日 UIA 大会開会式について打合せを持つ。9月26日開会式は実質35分間の予定だが、人の動き、場所、時間、あらゆる場面を想定した詳細な詰めが必要だ。会場には10台の金属探知器が用意され、VIP 対応にも十分な配慮が必要となる。午前10時開会の式典会場は9時半には入場扉が閉鎖される予定で、その後は式典閉会まで入場できなくなる。今後週に一回この会議を開き、大会実施本部として詰めていく。
- 7日 5会広報連絡会議に参加。JIA は9月27日に東京国際フォーラム(TIF)D-1ホールで3つのプログラムを持つ。ホール機材、通訳などについて3プログラム間で調整し、効率化を図るつもりだ。
- 8日 JOB 部会長会議に参加。ボランティア募集について話し合われる。3つの大会式典(開会式、表彰式、閉会式)についてJIA から責任者を出す。JIA 関東甲信越支部及び JOB 運営部会を中心に毎週行われる大会実施本部の

- 設置を報告する。
- 10日 建築セミナーの開校式に参加。これから8ヶ月の間に25回のセミナーが予定されている。
- 14日 UIA大会実施本部に参加。前回に引き続き、9月26日の進行運営について詳細な詰めを行う。金属探知器周辺での対応、同時通訳イヤホン配布位置修正等々。
- 15日 全国支部長会議を神戸で開催。今日、明日は阪神大震災時のまちづくり事例を見聞する。成功事例としての野田北部地区では震災の2年前にまちづくり協議会を設立していたため、震災後1週間で復興対策委員会が設立している。新長田、御蔵地区見聞の後六甲山で支部長会議を開催する。1年後のJIA大会の会場について議論となる。順番から言えば北海道又は中国となるが、両支部とも支部役員会で話した結果、地方支部にとって1年では準備期間が短く2年後に開催したいという報告がある。関東にお鉢が回りそうになったが、現在UIA大会準備で大変なことを挙げ、お断りする。
- 16日 芦屋地区復興まちづくりの見学後、芦屋市役所でまちづくり協議会の方々、行政の方々と意見交換を行う。
- 18日 3年程前から世田谷地域会が集落景観の相談に係わっている群馬県川場村視察を、世田谷地域会、群馬地域会合同で開催。この村には世田谷区の保養施設があり、生産地としての川場村、消費地としての世田谷区という構図が区の各種イベントで現れている。村ではより一層の魅力作りを模索している。夜は茅葺き民家の会場で両地域会合同懇親会が行われ大いに盛り上がる。
- 20日 午前中、UIA推進コア委員会+大会実施本部会議が開かれる。各支部参加登録の状況、式典準備状況が話し合われる。大会は28日に終了するが、28日から開催されるUIA理事会、総会準備についての話し合いが行われる。開会式典をスムーズに行うためJIA会員はなるべく前日にチェックインするよう、会員に促す。26日開会式典には荷物の持ち込みが認められないため、式典終了までコングレスバッグ受け渡しはしない。UIA大会参加登録について後一步のところ。地方支部には目標達成が見えてきている。関東甲信越支部でも県単位の地域会は高い参加率を上げており、低いのは東京に集中している。午後、第192回理事会が開催される。2012年JIA全国大会開催地について協議。北海道が2013年、北陸が2014年開催に意欲を見せる。地方支部にとって今から1年間の準備期間では開催困難との意見から関東甲信越支部での開催を正式に打診され、支部に持ち帰ることにする。定款改定に関して最終的な審議を重ねる。7月22日関東甲信越支部を皮切りに8月末に掛けて各支部で会員集会を開催し、会員への周知、意見集約を行う予定。あいかわらず夜8時過ぎまで伸びる。途中中

- 座して7時より国際委員会に出席する。UIA大会関連、8月半ばのアルカシア大会について協議する。
- 21日 UIA大会実施本部会議にて詳細確認をする。
- 22日 支部常任幹事会が開催される。UIA大会関連として、参加登録状況、寄付状況、職能シンポジウム、万人の建築家展、100人茶会を協議する。来年はアーキテクト・ガーデンを6月に開催する予定で協議する。前回理事会から持ち帰った2012年JIA全国大会について関東甲信越支部で開催するか否かを協議する。他の地方支部での開催が困難であることを受け、関東甲信越支部で開催することを決議する。次回役員会までに開催地等の検討を進める。引き続き地域サミットを開催する。震災の影響を受けた地域会から具体的な被害状況などが報告された。東京地区の地域会活動が活発化し、行政との関わりが浸透する様子が報告された。会員集会が開かれ、筒井専務が新定款について説明された。
- 25日 建築家会館座談会に参加する。株式会社建築家会館設立50周年（会館落成から43年）を記念して2回の座談会を企画し、記念誌として発行する予定。第1回は4月に椎名政夫氏、大宇根弘司氏、斉藤孝彦氏、野生司社長による座談会が設けられ、第2回は芦原会長、野生司社長、中村高俣氏、上浪による座談会となった。若手建築家が安心して設計活動を展開するため、より充実した保険制度や、司法相談業務など(株)建築家会館に求められる課題は多い。
- 29日 9/27のUIA大会表彰式、/28の閉会式についてミーティングを持つ。27日夜にはゴールドメダリストのA.Siza氏による特別講演が開催され、28日にはUIA大会宣言が採択される予定。
- 30日 第6回目となる連続職能シンポジウムが開催される。宮城県名取市の佐々木一十郎市長、長島孝一氏、針生承一氏をパネリストとして迎え、芦原会長がコーディネーターを務めた。佐々木市長からは復興未来会議など、新たな試みによる復興を目指している話をいただいた。長島氏は、日本で明治維新、大震災、大戦等、ふるさとの消失が歴史的に繰り返されることを紹介され、新しいふるさと創出には地域の風土に合った風土建築による原風景の再構成が必要で、それが地域の持続可能性を担保する、と語られた。針生氏からは実際に汗をかいて復興を進める建築家の姿の紹介を頂き、会場出席者に対してアーキテクトとして積極的に関与する必要性を強く求められた。

支部長活動報告 2011年7月
2011年7月作成 上浪 寛



「UIA 東京大会」

<http://www.uia2011tokyo.com/ja/>

「一万人の建築家展」

<http://www.10000architects.com/>